

JARL

# 香川クラブ報

No.236・237 昭和63年6月15日

(JARL 総会特集号)

社団法人 日本アマチュア無線連盟香川クラブ

## 瀬戸大橋総会を振り返って

5月29日晴天のなか、JARL第30回通常総会がトリプル香川のマツノイパレスにおいて「瀬戸大橋総会」の愛称で、日本全国からたくさんの局長を迎え開催された。

瀬戸大橋総会実行委員会が昨年2月に発足し、その後約1年3カ月、全体会議・拡大役員会、副部長以上で構成する役員会そして部内会議など、実行委員の熱意と創意工夫、奉仕により瀬戸大橋総会は、当日のお天気同様にスムーズかつ理想的に終了した。

私は運営部長の大役を仰せつかり、この行事に参加させてもらった。

運営部は、当香川クラブと讃岐東ファミリークラブ・讃岐うそどりハムクラブ、そして壇の浦ハムクラブの4クラブ及びクラブ所属以外の協力者など40名で構成された。

業務内容は、総会前日は理事会・評議員会及び支部長連絡会の会場関係用務、前夜祭終了後の総会会場の設営、そのほかJAIAの展示場オープニングセレモニー・前夜祭準備・記念品等の袋詰・接待などの応援をした。

そして総会当日は、この瀬戸大橋総会の最もハイライトである総会進行・演出、参加者全員による集合写真の撮影及びそれらにかかわる警備、新役員による理事会など、息つく暇もない忙しさであった。特に前理事の不祥事があり、総会議事で混乱が予想されるとの情報があったが、事無きを得、運営部40名が私自身ビックリするぐらいよくまとまり、終わってみれば、なにかあっけなく感じたぐらいである。

ところで、この準備期間1年余りを振り返ってみると、4クラブ合同ということで他のクラブのことが全く分からず、しかも何をやってよいか見当もつかず困ったものである。

とりあえず、第29回通常総会を見学しようと福山の「びんご総会」に参加した。

なんとか雰囲気も分かり、まず進行台本の作成、部員の個人別任務分担表及びタイムスケジュール表、各会議の会場見取図と進める一方、事務局に問題点を提案し解決を仰いだ。

また運営部会も開き、他の3クラブとの協調を図るとともに、運営部

に与えられた任務及び部長としての考え方を理解してもらった。

日が押し迫るほど、いろいろと問題点が出たり、また計画が一部変更になったりで、あせったこともあったが、部員40名とりわけ香川クラブの部員に助けられ、大事なく乗り越えることができた。

さて、反省点として、

1. カッコよく言えば床下の力持ち、影の仕掛人となるのだが、その記録がとれなかった。総務部が記録しているという安心感があったのだが、やはり独自に記録すべきであった。
2. マツノイパレス、JARL事務局等との打合せが思うようにできておらず、最後まで混乱した部分があった。
3. 寄せ集め集団のため、縦横の連絡が悪く、各所で混乱が見受けられた。
4. 瀬戸大橋の影響が最後まで読み切れず、特に前夜祭でのトラブルが目立った。

等々いろいろ出てくるが、こと運営部に関しては、どこを探してみてもたいした問題点はなかったと思うが、それは私の自惚れかも知れない。

しかし、なにはともあれ、“終わりよければすべてよし”のとおり、「瀬戸大橋総会」は大成功であった。

◎ 運営部メンバー（香川クラブ）

設営A	班長	JH5EZB	三木	博之
		JR5XCB	国方	正博
進行	班長	JH5WMN	山口	博司
		JA5KZK	喜多	信
		JA5QPL	小川	敏夫
		JH5HGI	高橋	利彰
		JH5QOG	坂口	稔
		JH5PRJ	三好	美智江

○ その他クラブ以外の協力者

JA5FDG	神谷	明伸	JR5GLO	谷本	清二
JH5TGA	植田	豊	JR5OVR	十川	徹
JH5VJE	三好	静子			

De 元瀬戸大橋総会実行委員会運営部長 JH5LYW 三好 伸幸

## J A R L 第 3 0 回 通 常 総 会

上記総会が去る5月29日(日)にわが香川の地で開催され、遠く全国各地から参集された会員の方々並びに地元登録クラブの各位によるご協力のもと盛会裡に終了いたしました。

瀬戸大橋開通(63.4.10)後間もないということも手伝ってか、前夜祭の参加者約800人を数え、総会当日は約1,500人になんなんとする人々の参加で、地元としては嬉しい悲鳴の連続でした。

私たち地元実行委員会では、一生に一度の大きな催し事と受けとめ、「瀬戸大橋総会」と銘うって1年余り前からその準備にあたり、全身全霊を傾けての取り組みで、この成功に導いたものでした。

わがクラブからも精鋭を実行委員会に送り出し、運営部担当として総会の進行に大きく寄与しました。ここにその労苦をねぎらうとともに、クラブ員各位にお知らせするものです。大変お疲れさまでした。

なお、総会では、次のような昭和63年度事業計画案が提案され、賛成多数で可決されました。

1. アマチュアバンド拡充の推進
2. アマチュア無線制度の改善
3. アマチュア衛星「ふじ」の利用及びJAS-1b打上げに関する施策の推進
4. アマチュア無線活動の育成強化
5. 会員の拡充に関する施策の推進
6. 国際協力の推進
7. 監理事業の充実
8. 身体障害者に対する援助・協力

以上のほか、相互運用の対応、広報活動の充実、技術研究所の充実、JARLが開設管理する無線局の整備及び有効運用の推進、JARL主催コンテストの参加促進、アワードの発行、QSLカード転送業務の円滑化、事務局事務処理合理化の促進、出版頒布事業の拡充、JARL会館建設の整備等を推進します。

## 第30回通常総会、 全議案を可決・承認

JARLの第30回通常総会（瀬戸大橋総会）は5月29日午前10時から四国・高松市郊外のマツノイバレス（香川郡香川町）で開かれた。4月10日に開通した瀬戸大橋で本州と“陸続き”になったばかりの四国で、16年ぶり（前回は47年、松山市）とあって、約2000人が出席する盛会であった。

総会はJA5MG 稲毛章JARL四国本部長、JA1AN 原昌三会長の開会のあいさつのおと、奥山雄豺郵政省電気通信局長、平井城一香川県知事の祝辞、JI1KIT 小淵恵三官房長官、JA5FHB 関谷勝嗣代議士、HL1IFM 朴瑩淳KARL理事長、9V1RH/VK3QV デビッド・ランキン IARU・Reg. 3（第3地域）連合理事会議長らの祝電が披露された。

続いて行われた表彰では、中国に20局を超すアマチュア無線局を開設させたほか、同国の7MHz アマチュアバンド内の放送停波に尽力し、日中友好に貢献した中国無線電運動協会（CRSA）秦篤訓主席、程平秘書長、中国国家体育委員会無線電運動学校の汪勳校長に感謝状、永年にわたりアマチュア無線を通して日中友好親善の増進に寄与し、国際アマチュア無線活動の進展に尽力したJR1HHL 鈴木聰男氏に表彰状が贈られた。

### ◎ 岩瀬理事問題等で熱心な討議

午前11時すぎからJA5IE 近藤利弘議長、JA5FJL 藤井可郭・JA5IR 竹内巖両副議長によって議事が進められた。

### ○ 昨年11月に理事を辞任したJA1LG 岩瀬靖近氏の辞任の経緯について――

岩瀬氏（JA1LG）が中国で電波を出したことは誠に遺憾であり、我々も心を痛めている。

62年の8月8日、岩瀬氏は19:00～19:40の間ラサ（チベット）から20.21MHzで自作したコールサインBTØHAで試験電波を出し日本と12

局ほど交信した。その晩官憲（公安関係）に踏み込まれ、8月9日に正式な運用を行うことになっていたが急遽とりやめ北京に帰った。このような事件があった。

実は岩瀬氏が中国へ出発する2日ほど前に「北京とチベットで電波を出したい」と電話があった。私は「中国で電波を出すのはむずかしい。特にチベットは難しいから慎重に」と伝えた。その際、北京では電波が出せるよう紹介状を作り、同氏は出発した。

岩瀬氏はCRSA（中国無線電運動協会）の汪勲副秘書長に、中国で電波を出したい、チベットでも電波を出したいといったが、汪氏からはチベットで電波を出すことは絶対に駄目だといわれた。

ところが実際にはチベットで自作したコールサインで電波を出し、公安関係につかまった。

岩瀬氏は8月13日に帰国したが、21日のハムフェアで「チベットで電波を出した。北京では正常に運用させてもらった」と伝えてきた。

当時JARLでは7MHzの放送停波に取りくんでいた大事なときなので、8月25日ただちに中国へ謝りの手紙を会長名で出した。誠に申し訳ないことをした。しかしこの件と7MHz問題とは別である。と平謝りした。汪副秘書長からは「わかった。7MHzの停波については積極的に進めていく」とのことだった。

ところが、11月のFOXテーリング全国大会へ中国選手団長として来日した馮（フォン）氏からCRSA汪氏の伝言が伝えられた。「CRSAとしては岩瀬氏が中国チベットで電波を出したことはたいへん怒っている。我々も大変な迷惑を受けた」と文書ではなかったが、口頭で極めてきつい叱りを受けた。

理事会としては、JARLを代表する理事がコールサインを自作して不法運用したことについて、岩瀬氏を除いて満場一致で理事不適格との結論を得た。

そこで岩瀬氏に自発的に理事をおりてもらう。しかし会員をやめてもらうまでは、と判断して自発的に理事を辞めるよう勧告、11月28日付けの同氏の辞表を同日開いていた第304回理事会で受理した。

質問の「一身上の都合」については、日本では一般社会通念としてよく使われるが、本人の将来のことも考え、また国際的なトラブルとして

中国をまき込まぬように、なによりも当時はちょうど7MHzの問題で、いかにして停波させるかということをやっていた。これは17年間の執念で、何としても止めたいという時であった。

本人のため「武士の情け」、それと国際的な問題から、そうさせていただいた。

#### ○ アマチュア無線におけるCW存続の問題——

「昨年のびんご総会（第29通常総会、広島県福山市）で、アマチュア無線は今後ともCWを存続しなければならないと述べた決意に変わりはない。新バンドプランで、一部CW専用枠がなくなったが、専門家が集まって決めたバンドプランであり、CW迫害とまでは思えない。しかしこの総会でCW枠を作ってほしいというアピールのあったことは念頭におき、今後もCW尊重は貫いていきたい」。

#### ○ 会員はじめアマチュア無線家の上級志向の衰退傾向とその対策——

「近年、上級資格に挑戦する者が減る傾向にあるのは残念だ。とくに昨年は2級受験者数は最低だったので、検討委員会を設けて問題点を研究した。

現在は全国10カ所ぐらいで試験が行われているが、これぐらいの数では不十分だ。2アマ受験のためのカリキュラムを作ったりして、勉強方法もシステム化したいが、ネックは電気通信術だ。

しかし、この10月からは1・2アマ試験にも多肢選択式の回答方法が取り入れられることでもあり、JARLからもそのうちいい案が発表できよう」。

との答弁があった。このほか総会では「空きコールサインの復活」・「新バンドプラン」・「会員サービスの向上」などで熱心な論議が行われたあと、全議案が可決、承認された。

#### ◎ 「前夜祭」はローカル色ゆたか

JARL総会恒例の前夜祭は“アイボールQSOパーティーインかがわ”と銘打って、28日午後6時からマツノイパレスの総会会場と同じクリスタルホールに、950名が集まって華やかに行われた。

稲毛四国地方本部長の「皆さん、ようこそ“青い国”四国へ。瀬戸大橋が開通した年に、第30回という節目の総会を開くことができましたことは、地元にとってたいへん意義深い」、原会長の「盛大な前夜祭を準備して下さった方々に感謝する」とのあいさつに続いて、平井香川県知事が「本土と“陸続き”になったことで、四国が脚光を浴びる時代が来た。アマチュア無線局のみなさんは、趣味を生かして国際親善に努めるとともに、この機会に瀬戸大橋博をはじめ、四国の実情を見て帰っていただきたい」と述べ、藤本正直香川町長、遠藤寿一四国電気通信監理局長らからも祝辞があった。

地元醸造の銘酒の鏡割り、三吉誠JAIA会長の音頭による乾杯で始まったパーティーは、香川県地方特産で鉄槌でたたくといい音がするサヌカイト（讃岐岩）で作った楽器の自動演奏、香川県在住の会員を中心に結成された楽団演奏による歌謡曲や民謡、お隣り徳島県池田町の風来坊連が阿波踊りの披露と、ローカル色の濃い余興を楽しみながら、午後9時ごろまで続いた。

#### ◎ 来年は北海道・登別で「鬼っ娘総会」

総会后開いた理事会で新執行体制が決まり、会長に原昌三、副会長にJA3XZWD田路嘉秀、JA6AV井波眞、専務理事にJJ1WUC熊谷誠、常任理事JA1HQG有坂芳雄、JA1SHG萩島清一郎各氏ら全役員が壇上で紹介され、退任した理事への労がねぎらわれた。

来年の第31回通常総会は5月28日、北海道胆振日高支部の登別市で開かれると発表され、総会のシンボルマークは稲毛四国地方本部長からJA8HR山崎信之北海道地方本部長に手渡された。

山崎本部長は「来年のことをいうと鬼が笑うといいますが、その鬼の話です。登別温泉の地獄谷の入り口には赤鬼青鬼の祠（ほこら）がありますが、鬼だって怖い鬼ばかりではない。やさしい鬼や女の鬼もいるでしょう。そうした鬼と会って、いい思い出をつくってほしいと思います、第31回総会は「鬼っ娘（おにっこ）総会」と名付けました。

どうか来年は、人情こまやかな鬼と出会うため、登別へお出でください」と呼びかけていた。

(JARL EXPRESS 第121号(1988年6月15日)から引用)

総会開催を記念して発行された「瀬戸大橋総会記念誌」に寄せられたごあいさつを転載させて頂き、わがクラブの記録に残させて頂きます。

## ご 挨拶

瀬戸大橋総会実行委員会委員長

JA5IQD 越智委員長

総工費1兆1300億円を投じ、9年半の歳月をかけて完成した瀬戸大橋は、本州側の岡山県倉敷市と四国側の香川県坂出市を結んで先月4月10日に開通しました。瀬戸大橋の開通によって四国は文字通り島でなくなり、いよいよ瀬戸大橋時代の幕が明けられたのです。今後は本州と四国が瀬戸大橋のもたらす経済や観光、文化交流など様々な面での効果によって、中四国はもとより日本全体に計り知れない影響があるものと各方面から大きな期待が寄せられています。

このような時期に（社）日本アマチュア無線連盟の第30回通常総会を香川県で開催することができますことは、地元香川をはじめ四国にとって誠に意義深いものと感謝しております。そして通常総会の愛称も「瀬戸大橋総会」とし、ハム仲間の友好の架け橋としていつまでも思い出に残る開催地でありたいと願っています。

5エリアでの総会開催は16年ぶりのことであり、四国地方本部会などで早くから総会誘致に向けての協議会が行われてきました。そして5エリア各支部の協力を得て、香川県下の登録クラブを軸に実行委員会を組織し、今日まで準備を進めてまいりました。幸いにも連盟本部を始め関係機関の暖かいご支援とご協力のお陰で無事に開催まで漕ぎつけることができ、誠にありがたいことと感謝しております。

瀬戸大橋を自動車やJRで渡ってこられた会員の皆様、どうかこの機会に青い国四国の良さを十分味わってください。きっと四国が大好きになります。

至らぬ点、不十分なところがあると思いますが、精一杯準備してきました実行委員会一同の熱意をおくみとりいただきまして、ご容赦いただきたいと思います。総会にご参加いただき本当にありがとうございました。

## ご 挨拶

社団法人 日本アマチュア無線連盟  
JA1AN 会長 原 昌三

JARLの第30回通常総会を、本州と結ばれました四国香川県において盛大に開催できますことを、大変嬉しく感じており、全国からお集まりいただいた会員の皆様方に、心より歓迎のご挨拶を申し上げます。また、今総会開催にあたり準備を進めて来られました、地元をはじめとする関係者の皆様方に、深く感謝の意を表する次第です。

今年は瀬戸大橋により本州と四国が結ばれ、また青函トンネルにより本州と北海道が結ばれましたことは、わが国の社会経済にとって大きな変貌と発展が期待されているところであり、このような記念すべき年に瀬戸大橋のすぐ近くで総会を開催できますことは、大変光栄なことと存じており、本総会が将来のアマチュア無線そしてJARLの発展にとって、いっそう意義深いものになることを願っております。

アマチュア無線におきましては、高度情報社会の発展のなかにあり、自らのよりよい発展を目指し、努力を続けておりますが、技術・運用両面において全てのアマチュアが今まで以上により積極的に日々の活動に取り組んでいただくことにより、そのなかから新しい成果が生まれてくるものと、確信しております。

新年度のJARLは、WARC新バンドの開放やフォーンバッチの許可、JAS-1bの打上げ推進、IARU第3地域総会への三角をはじめ会員事業および各種事業の充実など、取り組むべき沢山の課題がひかえています。

これらを推進するため、JARLとしてはさらに組織の充実、拡大につとめ、より多くの会員が力を合わせバンドの確保や制度の改革に努力して行けば、大きな成果が期待できることでしょう。この点について会員の皆様方のご理解とご協力を、今後とも広くお願いする次第です。

アマチュア無線のよき伝統である“アマチュア精神”とはお互いを大切にする友愛の精神と進取の気鋭に飛んだバイオニア精神をそのなかに含んでいます。これからもお互いにこの伝統を守りそして育て、素晴らしい明日の発展に向かって進んで参りましょう。

最後に、参加されました皆様方の、今後いっそうのご健勝とご活躍を祈念いたし、私のご挨拶とさせていただきます。

## ご 挨拶

(社)日本アマチュア無線連盟理事  
四国地方本部長 JA5MG 稲毛 章

日本アマチュア無線連盟第30回総会が、瀬戸大橋元年と言われる今年、四国・香川県において「瀬戸大橋総会」と銘打って盛大に開催されますことは誠に喜ばしく、心から御礼申し上げます。

通常総会は、連盟会員が年に一度、全国から集まり、会員の意見を表明することができる最高議決の場であります。連盟発展のために建設的な意見の交換がなされることを特に希望するものです。

四国における総会開催は、今回が2回目になり、1回目は昭和47年5月に松山市で、第14回通常総会として開催されており、当時社団法人として創立後10数年がたち、大幅な会員増等に対処するため、定款改正が行われ、組織の大改革により、今日のような県支部～地方本部制や、家族会員制などが誕生いたしました。

以来16年ぶりに青い国・四国において通常総会が開催されることになり、当然ながら香川県では最初の総会開催であります。

四国島民 400万人の長年の夢であった「瀬戸大橋」も4月に完成し、四国と本州が一つになったこの記念すべき年に、「第30回総会」という節目に当たる記念総会が、香川県で開催されますことは、いつまでも記憶に残ることと思います。

現在、わが国のアマチュア無線局数は、約80万局に達し、世界一のアマチュア国になっています。また、会員数も15万名に達しており、会員の多くの方々が、国内外のあらゆる分野で、アマチュア無線家として活躍をされておられます。

一方、今日のニューメディア時代を迎えて、わがアマチュア無線界の中にも、急速な技術革新が見られ、デジタル通信、画像通信や衛星通信なども次々と利用されるようになり、それらは多種多様を極めており、新しい時代の波が押し寄せております。今後も益々技術の進歩がなされ、夢のようなアマチュア無線界も想像されるところであります。

本総会開催を有意義なものとし、今後、日本のアマチュア無線界が益々発展されることを願う次第です。

おわりに、「瀬戸大橋総会」開催のためにご協力ご支援下さった関係各位に厚くお礼を申し上げます。また、総会開催のために1年以上もの間、準備に当られた実行委員の方々の並々ならぬご努力に対し、当地方の責任者として、感謝申し上げます。

総会ご参会の会員多数の皆様方の今後のご活躍を祈念して、ご挨拶いたします。

